

施策マネジメントシート

基本施策名	23下水道の整備・維持・更新	施策 統括課	下水道課	氏名	蛸谷常久
政策名	7都市基盤	主な 関係課			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
・市内全域 ・分流区域

② 施策の目的
地震・集中豪雨等による災害の未然防止にも十分配慮しながら、市民の日常生活や経済活動に必要不可欠なインフラ施設として、将来にわたって適切かつ効率的な維持管理・運営を推進します。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない		
	名称	単位
ア	市域面積	km ²
イ	分流区域面積	km ²
ウ		
エ		
④ 成果指標(意図の達成度の指標) 数字は記入しない		
	名称(展開方向ごとに記載)	単位
1	ア 南部地域(分流区域)における雨水管整備率	%
	イ 公共下水道管の改築・更新率	%
2	ア 未処理放流水のBOD値	mg/ℓ
	イ 雨水浸透ます設置数(累計)	基
3	ア 下水道事業の経費回収率	%
	イ	
4	ア	
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向		目的	手段(具体的な取組内容)
1	下水道施設の維持・創出	地震・集中豪雨等による災害や、施設の老朽化等による事故発生及び機能停止のリスクの低減を図ります。	◆下水道施設に起因する事故を未然に防ぐため、日常のメンテナンスを行い、「予防保全型」の維持管理に努めます。 ◆下水道施設の安全性を確保するため、公共下水道ストックマネジメント基本計画により、計画的かつ効率的に改築・更新を推進します。 ◆ミニ開発が進行(スプロール化)している南部地域の浸水被害を防止するため、雨水管の整備を推進します。
2	良好な水環境の維持・創出	治水対策を促進するとともに、河川・水路等の公共用水域の水質向上や地下水・湧水等の保全及び再生を図ります。	◆民間事業者による開発行為等において、雨水流出抑制に関する指導を行います。 ◆雨水浸透ます助成制度の周知を推進し、雨水浸透ますの設置拡大を図ります。 ◆循環型社会の構築にも結びつくよう、処理水や汚泥等の下水道資源の積極的な活用を図ります。
3	健全な事業運営の推進	重要なライフラインとしての役割を将来にわたって発揮し続けることができるよう、下水道事業の経営基盤強化を図ります。	◆地方公営企業法の適用により透明性が高く、より効果的で効率的な事業運営の推進を図ります。 ◆持続的な下水道事業を実施していくため、下水道事業の経費回収率の向上を図るとともに歳出の抑制に努め、効率的な事業の実施を図ります。
4			

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R9年度				
対象指標	ア	km ²	見込み値							8.15	8.15	8.15	目標達成度			
			実績値	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15	8.15							
		イ	km ²	見込み値							0.96	0.96	0.96	達成・ 未達成	前年度 比較	
				実績値	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96						
	ウ		見込み値													
			実績値													
	エ		見込み値													
			実績値													
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値						57.4	57.4	57.4	未達成	向上		
				目標値	58.0	58.1	58.4	58.7	59.0	60.0	60.7	62.0			68.0	
				実績値	56.6	56.6	56.6	56.6	56.6	57.4						
				基本計画における 指標の説明又は出典元	雨水管整備面積／分流区域面積(95.66ha)×100											
		イ	%	成り行き値							0.5	0.5	0.5	達成	向上	
				目標値	-	-	-	-	-	0.2	0.5	0.7	1.1			26.9
				実績値	-	-	-	-	-	0.2	0.5					
				基本計画における 指標の説明又は出典元	改築・更新延長／公共下水道管総延長(218.76km)×100											
	展開方向2	ア	mg/ℓ	成り行き値							-	-	-	未達成	低下	
				目標値	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0			
				実績値	36.3	25.8	43.0	84.0	23.0	28.0						
				基本計画における 指標の説明又は出典元	放流水に含まれるBOD値／放流水の総量											
		イ	基	成り行き値							20,198	20,198	20,198	未達成	向上	
				目標値	15,200	16,100	17,100	18,100	19,175	20,250	21,325	22,400	26,400			
				実績値	15,032	16,118	17,117	18,063	19,052	20,198						
				基本計画における 指標の説明又は出典元	市の助成及び窓口指導を受けて設置された雨水浸透ますの数											
	展開方向3	ア	%	成り行き値							114.3	114.3	114.3	達成	向上	
				目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
				実績値	98.0	99.2	99.3	95.2	108.1	116.5						
				基本計画における 指標の説明又は出典元	下水道使用料収入／汚水処理経費×100											
		イ		成り行き値												
				目標値												
				実績値												
				基本計画における 指標の説明又は出典元												
	展開方向4	ア		成り行き値												
				目標値												
				実績値												
				基本計画における 指標の説明又は出典元												
		イ		成り行き値												
				目標値												
				実績値												
				基本計画における 指標の説明又は出典元												
事務事業数			本数	18	14	5	4									
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	56,000	60,500	57,300	23,500								
			都道府県支出金	千円	3,091	3,024	2,850	1,150								
			地方債	千円	670,300	641,300										
			その他	千円	1,217,739	1,120,767										
			一般財源	千円	376,128	977,208	45,420	486,709								
			事業費計 (A)	千円	2,323,258	2,802,799	105,570	511,359	0	0	0	0	0			
	人件費		延べ業務時間	時間	17,074		9,657	18,833								
			人件費計 (B)	千円	78,686		39,535	80,165								
			トータルコスト(A)+(B)	千円	2,401,944	2,802,799	145,105	591,524	0	0	0	0	0			

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

B:目標をおおむね達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

・雨水管整備率は、分流区域の道路拡幅に合わせ雨水管整備を実施したことにより、整備率が向上した。

・老朽化対策の為、国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、計画的に改築工事を進めたことにより、整備率が向上した。

・雨水浸透ますについては、主に窓口指導により建築物の新築・増改築時に雨水浸透ますが設置され、設置基数が向上した。

・経費回収率については、金利の高い下水道債の償還が進み、経費となる利子が減少したことにより、経費回収率が向上した。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

- ・雨水管整備については、一般会計からの補助金で行っているため、市の財政状況によるところが大きい。
- ・合流式下水道緊急改善実施要領(平成16年4月)に基づき、国立市合流式下水道改善計画(平成17年3月)を策定し、事業を実施した。
- ・国立市公共下水道ストックマネジメント基本計画を策定した。(平成29年6月)
- ・国立市下水道総合地震対策計画(第3期)を策定した。(平成30年12月)
- ・国立市南部中継ポンプ場ストックマネジメント計画を策定した。(平成31年3月)
- ・国立市公共下水道ストックマネジメント計画を策定した。(令和元年12月)
- ・地方公営企業法を適用し、公営企業会計に移行した。(令和2年4月1日)
- ・国立市下水道プラン2020を策定した。(令和2年5月)
- ・国立市下水道事業経営戦略を策定した。(令和3年3月)
- ・令和5年度に立川単独処理区が北多摩二号処理区へ編入される。
- ・下水道使用料は年々減少傾向にある。節水意識の向上や節水家電の普及による影響であると推測される。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ・議会から豪雨時の浸水対策について要望がある。
- ・議会から管きよの老朽化対策を下水道ストックマネジメント計画により計画的に実施するよう要望がある。
- ・議会から雨水浸透施設推進の要望がある。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

- ・人口3万人以上の自治体は、令和2年4月1日付で地方公営企業法を適用し企業会計へ移行している。
- ・国立市は、既に公共下水道ストックマネジメント計画により令和2年度から改築工事を進めているが、多摩26市中3市では計画策定中の市もあることから、国立市の進捗状況は進んでいると思われる。

(4) 施策の具体的な取組状況

3年度の取組状況	4年度の取組予定
・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、第1期分の一部(約664m)の管きよ改築工事を実施した。 ・雨水浸透ます設置助成事業及び窓口指導により、宅地内雨水浸透ますが1,145基設置された。 ・市道南第33号線7に雨水管の整備を行い整備率が向上した。 ・経費回収率が116.5%となった。	・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和3年度に引き続き、第1期分の一部(約565m)の管きよ改築工事を実施する。 ・宅地内雨水浸透ます設置数向上のため、雨水浸透ます設置助成事業及び窓口指導等に努める。 ・経費回収率をより向上させ、下水道事業の経営基盤強化を図る。

6 3年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

<展開方向1>

雨水管整備は、57.4%の整備率であり、目標を達成していないが令和2年度と比較し0.8%向上した。今後も整備の推進を図る。

管きよの改築・更新は、国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、令和2年度から改築工事を実施しており、令和3年度の目標は達成した。今後も計画により改築工事を実施する。

<展開方向2>

令和3年度の未処理放流水のBOD値は目標値を概ね達成した。

雨水浸透ますの設置は、毎年度1,000基前後の設置実績があり、順調に設置数を増やしており、年間目標の約1,000基設置を達成している。しかし、助成金制度を利用した設置数は平成28年度から年間0～1基と設置数が低迷している。

<展開方向3>

経費回収率は、目標値の100%を上回る結果となり、目標を達成した。

○改善余地のある事項・課題等

・雨水管整備は、道路環境変化により、当初計画していた工事費を大きく上回ることから、国の補助金も含め財源確保が必要である。

・雨水浸透ます設置助成金制度

平成28年度から年間の設置数が0～1基であることから、助成金制度のPRの強化を行い市民への周知を図る。また、助成制度の見直しが必要であるか検討を行う。

(2) 施策の3年度における総合評価

B

成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価

A: 目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。

B: 一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。

C: 成果向上のため、一層の努力が求められる。

D: 成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。

E: 現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 5年度の取組方針

・国立市公共下水道ストックマネジメント計画により、第1期分の改築工事を進める。

・南部中継ポンプ場の汚水ゲート改築工事を進める。

・雨水浸透ます設置向上のため、窓口指導及び助成制度のPRに努める。

・経費回収率の向上に努める。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・国立市公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、効率的かつ計画的に公共下水道施設の改築・更新及び維持管理を推進する。